

令和元年度

# 「岡山県児童生徒いじめ防止ポスター・標語」県教育長賞・優秀賞作品

県教育委員会では、6月の第1月曜日からの1週間を「いじめについて考える週間」と設定し、学校や家庭、地域において、いじめを許さない意識や態度を育み、いじめの未然防止に向けた取組の充実を図るとともに、「いじめ防止ポスター・標語」の募集を行っています。次の作品は、令和元年度に応募のあった作品のうち、県教育長賞及び優秀賞を受賞された作品です。

※学年は令和元年度のものです。

## 岡山県教育委員会教育長賞

### ポスターの部



今、いじめで命をなくしている人も多し、犯罪みたいなことも起きています。だから、このポスターを描きました。こんな悲しいことはこれからはなくなっていってほしいです。

総社市立総社東小学校 2年 岡本 彩乃葉さん

### 標語の部

## 気付いてよ 本当の笑顔じゃないことを



「本当は作り笑顔だよ、本当は辛いんだよ」と誰かに言いたいけれど誰にも言えないという思いから、この標語を作りました。「辛い」という気持ちに気づいてもらえ、本当の笑顔でいられる人が増えればいいなと思います。

倉敷市立真備東中学校 3年 山本 悠月さん

## 目を合わせ 画面通さず それ言える？



スマホでは簡単に打てても、目を合わせて伝えるとなると喉(のど)につかえてためらってしまう言葉があるでしょう。相手を傷つけてしまわないか、きちんと考え直すからです。この姿勢を画面越しでも意識していたいものです。

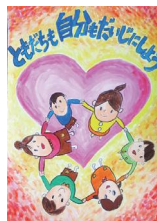
県立岡山操山高等学校 2年 辻川 桜子さん

## 優秀賞

### ポスターの部



笠岡市立中央小学校 1年 中西 咲帆さん



高梁市立高梁小学校 3年 月本 奈那さん



笠岡市立大島小学校 4年 大島 実和さん



岡山市立政田小学校 6年 若本 陽奈さん



美咲町立柵原中学校 1年 池下 由祐さん



岡山市立福南中学校 2年 藤本 琴羽さん



倉敷市立玉島北中学校 3年 佐藤 ひよりさん



私立倉敷高等学校 3年 栗山 光希さん

### 標語の部

いわないで ころがちくって することば  
いじめゼロ できたみんなに 金メダル  
さがそうよ だめなとこより いいところ  
あっちいけ そのきもちこそ あっちいけ  
見のがすな 友達からのSOS 迷わず報告、相談だ  
傷つけた 自分も言われて 気が付いた  
考えて それは良いこと?悪いこと? いじめ防止は自分から  
「いじめない」 口先だけに になってない?

里庄町立里庄西小学校 1年 水田 慈さん  
倉敷市立連島神亀小学校 2年 有本 琉己さん  
高梁市立高梁小学校 3年 井口 由貴さん  
倉敷市立琴浦東小学校 4年 清板 響一郎さん  
玉野市立田井小学校 5年 小柳 結愛さん  
玉野市立荘内小学校 6年 大賀 ひなのさん  
倉敷市立下津井中学校 1年 川邊 ちとせさん  
美作市立作東中学校 2年 春名 あいみさん

## 子育て Q&A コーナー

# 子どもの自己肯定感を高めるために



息子の個人懇談に行った際、担任の先生から、「お子さんは少し自己肯定感が低いところが気になります。家でもしっかり褒めてあげてください」と言われました。今まで、できたことは褒めてきたつもりですが、自己肯定感のことを考えて褒めたことはありません。どのように声をかけるとよいのでしょうか。



「自己肯定感」は、様々な言葉で表現されますが、「自分の在り方を積極的に評価できる感情」「自らの価値や存在意義を肯定できる感情」と言えます。確かに、自己肯定感は褒められたり、認められたりすることで育ちます。子どものよいところを、その時々、子どもに伝えるように表現することが大切です。テストでよい点が取れたとか、部活動の試合で勝ったというような時、「すごい!」「すばらしい!」と褒めることもよいのですが、もっと小さなことでもよいので、日常生活の中で、やるべきことをやった時、頑張ってやろうとした時に注目するとよいでしょう。例えば、「眠くても歯磨きができたね」「あなたの「おはよう!」っていう声を聞くと、私も元気になるよ」というように、日々の子どもの行動に対して、「OKだと思っている」ことが伝わるような褒め方、認め方がいいですね。

また、何かをやりとげた時以外にも子どもを褒める機会はたくさんあります。例えば、「宿題をちゃんと終わらせたね」と褒めるだけでなく、やり始めた時に「宿題に取りかかったね」と認め、宿題をしている途中で「頑張ってやっているね」と声をかけることで、一つの行動を何度も認めることができます。認められることで子どもは、「ああ、やっぱりこれでよいのだ」と自信をつけていき、その積み重ねが自己肯定感を育てていきます。

日常生活の中には、子どもが「よくできた」「これはいいことだ」と思っていることがたくさんあります。自己肯定感とは、自分でもよくやったと思うことを、そのとおり「よくやっているよ」と認めてもらえることでよりよく育つと言われていました。「やさしいね」「しっかりしているね」などと褒める時には、少し具体的に伝えるようにしてください。例えば、「やさしい」と思ったならば、そこには「やさしい」と感じるもとになった様々な行動があるはず。横断歩道を渡る時に弟と手をつなぐ、台所で忙しく働く親に「手伝おうか」と声をかけるなどです。「○○していて、やさしいね」「○○と言ってくれてうれしいよ」のように、子どもの行動と、親として感じた気持ちを合わせて伝えるとよいでしょう。自己肯定感とは、自信をもって何でも前向きに取り組むベースとなるほか、相手の気持ちを理解する力のもとにもなると言われています。自分や相手の気持ちを理解することができれば、コミュニケーションの力が育つことにもつながります。ここで述べたことが褒めること、認めることの全てではありませんが、ヒントにいただき、お子さんのためにできることから始めていただければと思います。

【参考文献】巽岩奈々(2011)「〇のない大人 ×だらけの子ども」集英社新書

